

リズムのある生活を

広島大学長 原田 康夫

このたび、本学より五十七名の方が退職されます。人生五十年といわれた時代に比べると、今は大変長寿の時代になりました。皆さんは、人生で大きな危機と思われる五十歳代を無事乗り越えてこられ、この度めでたく退職されるわけで、本当におめでとございます。

よく五十歳代を切り抜けると六十歳代は比較的安楽な年代だと言われていきます。皆さんは、戦後の困難期を経験してこられ、広島大学の歴史と共に歩まれた方ばかりで、長い人では四十年以上も本学に勤められた方もあります。これからは、広島大学という組織から

出て、第二の人生を歩まれるわけですが、一番大切なことは、今までのように生活のリズムを持ち続けることではないかと思えます。

人間の身体は一個の細胞においても周期とリズムで動いているのです。退職を機に、突然生活のリズムが変わることになると、身体のリズムも狂ってきます。よく退職すると数年で亡くなる人がありますが、やはり人生への目標がなくなり、一日のリズムが崩れることによるものと思うのであります。従って、どのようなことでもよいから一日の生活のスケジュールを立てて、毎日を送るということが必要ではないでしょうか。また健康管理を自ら行い、年一回の検診を欠かさないようにしてほしいと思えます。

そのためには、退職者の健康管理を保健管理センターにお願いし、附属病院も退職者の健康管理のための手助けをするように準備を整えています。特に、消化器では胃だけでなく、大腸の内視鏡検査を是非受けてほしいと思います。

戦後日本人に一番多かった胃がんは、検診の普及で死亡率が著しく低下し、死亡者は三十年前に比べ半減しています。それに代って大腸がんは、肺がんとともに急増しています。これは、食生活の西欧化による肉や脂肪のとり過ぎが原因と見られています。野菜などの繊維成分の摂取は、発癌の危険を少なくしています。いずれにしても、退職後を快適に過ごすには健康が第一です。それには、自分で面白くないことはあまりしないで、常に前向きでストレスのないリズムのある生活が大切です。くよくよと思いついて、睡眠がとれないようなことでは、自分の身体のリズムも崩れ、免疫能が低下します。免疫能が低下すると、いろいろな病気のもとになります。もし、眠れないとか何もしたくないようなことが続く場合には、かかりつけの医師に相談される方がよいと思います。

私の恩師 塚本 寛先生(元耳鼻咽喉科学教授)は現在九十四歳で、尾道に一人で住んでおられます。先生の健康管理は、まさにリズムのある生活で、午後五時半には寢床に入られ、朝三時半に起床されるという極端な早寝早起

きです。私は時々お伺いしますが、未だに歴史の本を出して話をされ、先日は足踏みのオルガンを弾いてくださいました。何時までも知的好奇心が旺盛で、洋書にも目とおし、食事も自分でととのえ、毎日の庭掃除を欠かさないうような生活です。また、一人の生活なのにズボン吊りにネクタイをし、身だしなみにも気をつけておられ、オールド・プロフェッサーの誇りをもって生きておられるのには、感心いたします。私も皆さんとほぼ同じ年齢でありましてだけに、毎日リズムのある生活を心がけ、広島大学のために働きたいと思っています。

どうぞ皆様、健康に留意され、これからの生活を大いに楽しんでいただきたいと思えます。

おめでとうござります。(ほらだ・やすお)

語る者は

特集 II 退職者



昭和41年頃の教養部数学教室

理学部小笠原先生の元での厳しいゼミ。やがて大学紛争が始まり、学活委員がよく回ってきた。国交・夜間警備・バリエード・教養部校舎の封鎖そして総合科学部の創設となった。それからいろいろなことがありました。岡本事件に続く授業妨害で、検察庁への出頭や現場検証まで経験させてもらった。

在外研究の帰途、ループル美術館でミレーの「晩鐘」の前に立つこともできました。研究室に飾ってあるその写真を眺めながら、お世話になった教職員の皆様に感謝し、広島大学の益々の発展をお祈りいたします。

* * * * *

先生は数学の分野における関数解析、特にシュバルツ

超関数の乗法積の研究で有名で、数々のすばらしい研究成果を学会に発表されました。総合科学部においても、昭和五十九年度の学務委員長を務められるなど、優れた識見と調和のとれた感覚をもって、多大な貢献をされました。

先生はまたいろいろな趣味をおもちで、サボテン、熱帯魚、写真等を家庭で楽しんでおられます。

今後の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。(基礎科学研究講座 吉田 敏男 記)

総合科学部基礎科学研究講座
榎原 忠幹

〈部局歴〉
昭33・5 理学部
昭37・11 (東北大学)
昭48・4 教養部
昭49・6 総合科学部

第一期生としての学生時代を含めると、三十五年間広島大学にお世話になりました。皆様の御援助により、元気で停年を迎えることができ、心から感謝しています。

総合科学部発足の一年前、熱気に溢れた中に着任し、これまで文字通り学部と歩みをとりにしたことになります。諸先輩から学部理念について熱くお話を聞き、一般教育関係を中心にいろいろな仕事に携わってまいりました。総合科学部は二十周年を迎えます。多くの優れた教員と個性的な学生を抱える学部が成長し、発足当時に比べるとまさに隔世の感があり、感慨もひとしお深いものがあります。

この間さまざまなことがありましたが、やはり親しくしていただいた岡本哲彦先生のご温顔とともに

悲しく想い起こされます。大学院部局化の流れの中でも、先生が情熱を傾けられた総合科学部の理念を生かすシステムは、生き残って欲しいと願っています。

先生の御専門は強磁性体の核磁気共鳴で、鉄中のマンガン、六方晶系コバルト金属単結晶、遷移金属化合物、および希土類金属化合物の内部磁場の起源の研究において優れた業績を挙げておられます。御自宅が学部の近くでもあり、退官後も私たちが訪ねて励ましてくださると思えます。

(基礎科学研究講座 小島 健一 記)

総合科学部社会文化研究講座
高崎 禎夫

〈部局歴〉
昭46・10 教養部
昭49・6 総合科学部

在職二十二年半のうち、この九年間は、私はずっと、広島大学入学者選抜方法検討委員会 追跡調査専門委員会委員長でした。同時にこれは、全国的には、国立大学入学者選抜研究連絡協

議会へのつながりも意味します。毎年私のとりまとめた本学の「入学試験に関する調査研究報告」は、今年で九冊目になりました。

そこでは、共通一次試験Ⅱセンター試験についてその基本的記述統計量の継続的算出を、また、二次試験Ⅱ個別試験も含めた教科間の相関分析を、さらに、特定問題の分析として、推薦入試や足切りや入れ替わり率、ごく最近は「選抜方式別入学者の学内成績の追跡調査」に取り組みました。

これらは、私の専門の統計学を生かす実践の場であり、また新しい命題・理論を見いだす発見の場でもありました。この間、全国にまたがって良き知己も得ました。私は幸福でした。

お世話になった全学の皆さん、とくに学生部長や入選検・入試課の皆さん、総合科学部の教職員の皆さんに、心より厚くお礼申し上げます。

* * * * *

万年青年の雰囲気をもっておられる先生が停年を迎えるなど、率直には信じられないことです。ご専門の経済統計学のことをよく語れないのですが、小道具を駆使しての授業、入試結果の追跡調査というユニークなお仕事など、強烈な印象を残してくださっています。余りにも楽しそうに旧軍隊の話をするため、先生は軍国主義者だと勘違いする人がときどきいたことも愉快な思い出です。

実は先生は大変な平和主義者です。(社会文化研究講座 田村 和之 記)

教官退職者

総合科学部基礎科学研究講座
板野 暢之

〈部局歴〉
昭36・1 教育学部附属中学校
昭37・4 (香川大学)
昭40・10 教養部
昭49・6 総合科学部

宏火を去るにあたって
思い出をつづる



私は旧制広島高等師範学校数学科最後の卒業生の中で、広島大学理学部三年への編入学試験を故岡本学部長とともに受験した。

昭和四十年十月 香川大学から、恩師光藤先生のいる教養部数学教室の一員に加えていただいた。元附属小学校三階に研究室と数学図書室があった。あれから二十八年半、停年までお世話になるうとは夢想だにしていなかった。今は亡き白石先生と一緒に通った

